

(様式第1号)

平成30年5月1日

認定介護福祉士認証・認定機構  
理事長 大島 伸一 様

領 域 名：リハビリテーションに関する領域

科 目 名：生活支援のためのリハビリテーションの知識

単 位 数：1単位

認証申請する研修の名称：認定介護福祉士養成研修

団体名：一般社団法人京都府介護福祉士会

団体事務所の所在地：〒602-8143


京都市上京区猪熊通丸太町下る仲之町519番地 京都社会福祉会館2階

電話：075-801-8060

FAX：075-801-8083

E-mail：kyoto-kaigofukushi@trust.ocn.ne.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者：(一社) 京都府介護福祉士会 

申請責任者：柏本 英子

記

○認定介護福祉士研修認証申請書（別紙1～3）

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	

(別紙 1) 認定介護福祉士研修認証

※申請受付番号 \_\_\_\_\_

(※は記入しないでください)

### 認定介護福祉士研修認証申請書

申請年月日	平成 30 年 5 月 1 日
申請団体名	一般社団法人 京都府介護福祉士会
申請団体代表者氏名	会長 柏本 英子
申請責任者職名 申請責任者氏名	認定介護福祉士養成研修担当 岡本 匡弘
団体住所  同 Tel・Fax メールアドレス	〒602-8143 京都市上京区猪熊通丸太町下る仲之町 519 番地 Tel : (075)-(801)-(8060) Fax : (075)-(801)-(8083) E-mail: kyoto-kaigofukushi@trust.ocn.ne.jp
申請対象の領域	領域名 : リハビリテーションに関する領域
科目名 (単位数)	科目名 : 生活支援のためのリハビリテーションの知識 (1 単位)
申請する研修名	認定介護福祉士養成研修
研修認証実績	年 認証番号 ( ) 年 認証番号 ( ) 年 認証番号 ( )
その他特記事項	

(別紙2) 認定介護福祉士研修認証

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	リハビリテーションに関する領域	
科目名	生活支援のためのリハビリテーションの知識	
(1) 提供する研修について		
研修名	認定介護福祉士養成研修	
教育目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーションの理念や知識を活用し、リハ職種と連携しつつ生活を支援することができる力を育成する</li> </ul>	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーションの理念とICF（国際生活機能分類）の考え方を理解し、生活リハの視点を持つことができる</li> <li>・関節・骨格筋・神経などの構造に関する知識を活用して運動学的に分析・評価する視点を持つことができる</li> <li>・病的な状態であっても、可能な動作を考え、支援することができる</li> <li>・心理的な知識・技術（人間関係論・コミュニケーション手法等）を活用し、利用者の意欲を引き出す視点を持つことができる。</li> <li>・リハ職種との連携・協働を行うために必要な視点や知識を習得し、連携・協働ができる</li> </ul>	
研修内容（研修プログラム）	含むべき内容	研修プログラム
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○リハビリテーションの理念</li> <li>○心身の評価とアプローチ</li> <li>○各日常生活動作における各関節・筋の運動、および上肢・体幹・下肢の相互関係</li> <li>○運動学的視点を生活支援に活かす考え方</li> <li>○生活支援の中で活かすリハビリテーションの視点</li> <li>○心理的な理解を生活支援に活かす考え方</li> <li>○リハ職種との連携・協働を行うために必要な視点と知識</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事前課題学習①（4時間） 「リハビリテーション」の理念について、文献等から調べ、800字程度にまとめる。</li> <li>○事前課題学習②（4時間） WHO(世界保健機構)が2001年に作成した国際生活機能分類(ICF)に関し、文献等から調べ、その目的や特徴について1,200字程度にまとめる。</li> <li>○リハビリテーションの理念 講義①（1時間） リハビリテーションの理念とICFの考え方を理解し、生活リハビリテーションの視点を学ぶ。</li> <li>○心身の評価とアプローチ 講義②（1時間）</li> </ul>

- ・「人間関係論」の説明をする。
- ・疾病と障害の評価方法を学び、リハビリテーションにおける介入方法を理解する。

○日常生活動作における各関節・筋の運動、および上肢・体幹・下肢の相互関係  
講義・演習③（2時間）

日常生活動作をとりあげて動作分析の演習を行い、身体の観察すべきポイントを学習する。

○運動学的視点を生活支援に活かす考え方

講義・演習④（2時間）

「運動機能」の視点から安全で効率的な介助方法について学び、生活支援の現場での活かし方についてディスカッションする。

○生活支援の中で活かすリハビリテーションの視点

講義⑤（2時間）

- ・「人間発達論」・「社会発達論」の説明をし、集団・社会の重要性を理解する。
- ・生活支援の中で、疾患や障害によってできなくなった動作を補うという介護支援だけでなく、潜在能力を引き出す介護を取り入れる視点を学ぶ。

○心理的な理解を生活支援に活かす考え方

講義⑥（2時間）

- ・「傾聴」について学ぶ。
- ・「アサーション」を理解したコミュニケーションについて学ぶ。
- ・心と身体は別々なものではなく、互い

	<p>に関連し合っていることを理解し、生活支援に応用する方法を学ぶ。</p> <p>○リハ職種との連携・協働を行うために必要な視点と知識 講義・演習⑦（2時間） 「リハ職種との連携」・協働に必要な視点と知識の理解ができ、利用者中心の他職種連携に必要な視点について議論する。</p>
研修方法	<p>■集合研修 ■課題学習</p>
研修時間	20 時間（集合研修 12 時間、課題学習 8 時間）
修了要件	<p>○原則として全課程の出席を要する。公共交通機関の影響、冠婚葬祭、担当する利用者の急変等やむを得ない事情による遅刻、早退については30分を上限として認める。30分を超える遅刻、早退の場合、別途課されるレポート課題により代替することを可能とする。30分を超える遅刻、早退の場合は、ビデオ学習による補講を行ったうえでレポート課題を提出するものとする。</p> <p>○修了評価として行う筆記試験（50 問程度）において、A～C 評価（100 点満点中 60 点以上）であること。D 評価（59 点以下）の場合は、再試験を行い、A～C 評価とならなければ「自立に向けた生活をするための支援の実践」科目は受講できない。なお、再試験は複数回の受験を可能とする。</p> <p>実技試験において、A～C 評価（100 点満点中 60 点以上）であること。D 評価（59 点以下）の場合は、再試験を行い、A～C 評価とならなければ「自立に向けた生活をするための支援の実践」科目は受講できない。なお、再試験は複数回の受験を可能とする。</p> <p>○評価基準は別紙の通り。</p>
講師要件（講師の選定基準）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験があること</li> <li>・修士課程を修了していることが望ましい</li> <li>・日常業務で介護福祉士と共に働いた経験のあるリハビリテーション専門職（理学療法士・作業療法士・作業療法士等）、または、リハビリテーション科専門医（大学講師以上）が望ましい</li> </ul>

(2)受講者について	
受講対象 (受講要件)	特になし
修了評価	<p>○全課程の出席を要する。公共交通機関の影響、冠婚葬祭、担当する利用者の急変といったやむを得ない事情による遅刻、早退については合計30分（遅刻、早退それぞれ15分）を上限として認める。（レポート課題なし）1日のプログラムのうち、始めの30分を超える遅刻、終わりの30分を超える早退であって120分以内である場合、レポート課題による代替を可能とする。120分を超える遅刻、早退の場合は、ビデオ学習による補講を行ったうえでレポート課題を提出するものとする。</p> <p>修了評価は以下により行う。</p> <p>①出席状況が修了要件を満たしていること。</p> <p>②筆記試験（50問程度）により行い、100点～80点をA評価、79点～70点をB評価、69点～60点をC評価、59点以下をD評価とする。A～C評価（100点満点中60点以上）で修了とする。</p> <p>③実技試験（10問程度から2問選択する）により行い、100点～80点をA評価、79点～70点をB評価、69点～60点をC評価、59点以下をD評価とする。</p>
(3)研修の環境条件	
定員（講師の配置基準）	40名。
開催場所（都道府県）	京都府社会福祉会館

(別紙3) 認定介護福祉士研修認証

認証申請する研修の実施体制等 (届出事項)

(1) 研修の実施予定	
実施日	① 平成 31 年 2 月 23 日
	② 平成 31 年 2 月 24 日
開催場所 (会場)	① 京都女子大学 T校舎
	② 京都女子大学 T校舎
(2) 講師	
担当、氏名及び略歴	<p>辻 修嗣氏 生田病院リハビリテーション科 技師長</p> <p>・ 学歴 1989 年 4 月神戸学院大学経済学部入学 1993 年 3 月神戸学院大学経済学部卒業 1996 年 4 月平成医療専門学院理学療法学科入学 1999 年 3 月平成医療専門学院理学療法学科卒業 2016 年 4 月京都橘大学大学院健康科学研究科入学 2018 年 3 月京都橘大学大学院健康科学研究科卒業 2018 年 4 月滋賀医科大学大学院医学系研究科博士課程入学</p> <p>・ 資格 1999 年 4 月理学療法士免許取得 2011 年 12 月整形外科リハビリテーション学会認定指導員</p> <p>・ 職歴 1993 年 4 月川崎電気株式会社入社 1995 年 9 月川崎電気株式会社退社 1999 年 4 月愛生会山科病院入職 2002 年 3 月愛生会山科病院退職 2002 年 4 月ヴォーリズ老健センター入職 2003 年 3 月ヴォーリズ老健センター退職 2003 年 4 月医療法人社団美松会生田病院入職 2018 年 4 月現在に至る</p> <p>・ 教育歴(介護職向けの講習) 2002 年 ヴォーリズ老健センター「介護職の腰痛予防」 2003 年 ケアセンターこうせい 「介護時の腰痛対策」 2004 年～2018 年 生田病院「介護時の腰痛対策」「移乗、体位変換について」</p>

	<p>・介護に関する著書 リハビリの専門職としてどう役立つか. 老健, 2013, 13(12) : 62.</p>
	<p>担当する講義等 事前課題①② 講義①②⑤⑥ 講義・演習③④⑦ 課題評価 筆記試験、実技試験 経歴は同上</p> <p>担当する講義等 講義・演習③④⑦ 課題評価 実技試験</p>
(3)実施体制	
研修の企画運営の組織 (担当部局・人員)	<p>認定介護福祉士養成研修実行委員会（常勤：1名（予定）、非常勤:6名） 実行委員会事務局（担当事務局員、非常勤2名） 研修実行員会において各科目の教育目的や到達目標を確認し、担当講師と科目間の連間や留意点について共有する。またできる限り研修実行委委員会の委員が研修に参加・見学し、研修内容を評価するとともに、随時研修の見直しを図る。</p>
研修の企画運営に関する諸規程	京都府介護福祉士の定款、生涯研修委員会の諸規程に準ずる。
研修管理責任者職名	京都府介護福祉士会 会長
研修管理責任者氏名	柏本 英子
機構問合先部署	一般社団法人京都介護福祉士会 事務局
機構問合先担当者氏名	岡本 匡弘
機構問合先電話番号/FAX	075-801-8060 / 075-801-8083
機構問合先 e-mailアドレス	kyoto-kaigofukushi@trust.ocn.ne.jp
受講問合先部署	一般社団法人京都府介護福祉士会 事務局
受講問合先担当者氏名	齊藤 晶子
受講問合先電話番号/FAX	075-801-8060 / 075-801-8083
受講問合先 e-mailアドレス	kyoto-kaigofukushi@trust.ocn.ne.jp
(4)研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	京都府介護福祉士会事務局
受講履歴の管理方法	<p>○紙媒体及びデータによる台帳管理 ○データ保存期間は最低10年間とし、その後は、紙媒体で保管する。 ○個人情報の取り扱いにおいては、法律を遵守する。</p>



受講履歴の証明	各科目を修了した時点でその科目の修了証明書を発行し、全課程を修了したものには、全課程を修了した証明書を発行する。
管理責任者氏名	柏本 英子（会長）
管理担当者氏名	齊藤 晶子（担当の事務局員）